

[2010年度 国際文化学部主催企画活動報告] 地方からの映像文化発信——山形放送ディレクター松浦正登さんの作品を観ながら

高柳, 俊男

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

異文化 / 異文化

(巻 / Volume)

13

(開始ページ / Start Page)

114

(終了ページ / End Page)

115

(発行年 / Year)

2012-04

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007871>

[2010年度 国際文化学部主催企画活動報告]*

地方からの映像文化発信

——山形放送ディレクター松浦正登さんの作品を観ながら

報告者：高柳俊男

YBC山形放送のディレクター松浦正登さんは、地元で取材したテレビドキュメンタリー作品を数多く手がけている。そのなかには中国侵略に加担した過去と向き合い謝罪の旅を続ける元憲兵の話や、シベリア抑留など、山形県と外国に関わる題材も多いし、農業や生態系破壊の問題を扱ったものもある。いずれも地元の庶民の視点に立ちつつも、山形という一地方に止まらない普遍的な問題提起が含まれており、全国的なコンクールで賞に輝いた作品も少なくない。

その松浦正登さんをお招きして、作品と一緒に観ることを通して、地方からの文化発信や、ドキュメンタリー作品のあり方などについて、ともに考察を深める場を設けてみた。ドキュメンタリー作品を卒業制作した国際文化学部卒業生の作品も同時に上映し、また本学大学院国際文化研究科で、山形国際ドキュメンタリー映画祭や移民・シベリア抑留を研究している院生たちも議論に加わることで、ワークショップのような参加型のイベントとして実施した。

- 日時：2010年5月22日(土) 13:30～
 - 場所：ボアソナータワー 3階 0300教室
 - プログラム：
 - (1) 松浦正登さんの映像3本上映
 - ①「ある戦犯の謝罪」(1990年)
 - ②「いまだ凍土のごとし」(1991年)
 - ③「届け! クマタカの叫び」(1996年)
 - (2) 座談会 パート1
本学大学院国際文化研究科在学生ないし修了生の中山寛子さん、
小林昭菜さん、石川宗孝さんも加わって
 - (3) 本学部卒業生の卒業制作作品上映
 - ①小林元大さん(2006年度卒業生)
「中国人として生きるコリアン—延辺朝鮮族のアイデンティティ
を求めて」
 - ②小林恵実子さん(2009年度卒業生)
「台湾人特攻隊員—彼の決断と日本の責任」
 - (4) 座談会 パート2
会場からの発言もまじえて
-

*本企画は、2010年度に行われましたが、「異文化12号」に掲載されなかったため、この場をかりて掲載させていただきました。(企画広報委員会)